

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

晴れた日に外へ出ると、自分の影がある。朝の影は長く、細く、遠くまでのびている。ところが昼になると、影は足もとに縮こまり、夕方にはまた反対の側へ長くのびていく。影の長さは、一日の中で大きく変わる。

なぜ変わるのか。影を作っているのは太陽の光だ。太陽が低い位置にあるとき、光は横からなめに差しこむ。すると、体にさえぎられた光の届かない場所は、地面の上で遠くまでのびる。太陽が高い位置にあるときは、光はほぼ真上から差す。さえぎられる場所は、足もとの小さな範囲だけになる。つまり、影の長さは、太陽の高さで決まる。

このことは、昔の人にとって、ただの面白い現象ではなかった。時計がなかった時代、人々は地面に棒を立て、その影の向きと長さで、およその時刻を知った。影がいちばん短くなるときが、太陽がいちばん高いとき、すなわち昼である。棒一本と地面があれば、それは時計になった。

影は、季節も教えてくれる。同じ昼でも、夏の影は短く、冬の影は長い。夏は太陽が空の高いところを通り、冬は低いところを通るからだ。昔の人は、昼の影の長さを毎日ばかりで、一年の中でいちばん影が長い日と短い日を見つけ、季節のめぐりをつかんだ。カレンダーのない時代、影は暦でもあった。私たちは今、時刻も季節も、画面を見れば分かる。だが、影が語っていることは、昔と少しも変わっていない。足もとの影が短くなれば昼が近く、長くなれば日が傾いている。ときには画面から目を上げて、自分の影を見てみるとよい。そこには、太陽と地球の関係が、そのまま映っている。

(この問題のための書き下ろし)

問一 影の長さは何によって決まると筆者は述べていますか。本文中から五字で抜き出なさい。

--	--	--	--	--

問二 「朝の影は長く、細く、遠くまでのびている」とありますが、その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 朝は太陽の光が弱く、影がうすくなるから。

イ 朝は太陽が低い位置にあり、光が横からなめに差しこむから。

ウ 朝は空気が冷たく、光がまっすぐ進まないから。

エ 朝は人の体が縮んでいて、影も細くなるから。

--

問三 時計がなかった時代、人々はどうやっておよその時刻を知りましたか。「～で」につながるように、本文中から二十字以内で抜き出なさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問四 「影は暦でもあった」とありますが、昔の人はどのようにして影から季節のめぐりをつかんだのですか。四十五字以内で説明しなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問五 最後の段落で筆者が言いたいこととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 画面で時刻を知るの間違ひなので、影で時刻を知るべきだ。

イ 昔の人のほうが、今の人よりも科学の知識が豊かだった。

ウ 影が語れることは昔と変わらず、そこには太陽と地球の関係が映っているので、時には影を見てみるとよい。

エ 影の長さは今では意味を持たないので、忘れてしまってもよい。

--